

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年7月8日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200429
法人名	医療法人 同潤会
事業所名	自立の家
所在地	鹿児島県薩摩川内市大小路町51番23号 (電話) 0996-22-8611
自己評価作成日	令和5年6月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年6月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは閑静な住宅街の中にあり、近隣には認定こども園、公園、スーパーがあります。静かながらも利便性がよく子供たちの声が聞こえる恵まれた環境を有しています。また、母体でもある永井病院と隣接しており、定期的な訪問診療や定期検査など医療連携体制を整え、利用者様の体調管理を行っています。他に同一法人には老人保健施設、デイケア、在宅介護支援センター、生活支援ハウス、小規模多機能事業所、有料老人ホームなどあり、各事業所と連携を図りながら皆様が安心して生活できる環境となっています。

コロナ禍のため、地域との交流は中断されていますが、以前は茶飲み会やいきいきサロン(自治会主催)等に参加し、地域との交流を図っていました。また、近隣の認定こども園との交流もあり、運動会や秋祭りなどの行事見学などを行っています。

毎月様々な災害(地震・水害・火災等)を想定した避難訓練を実施しており、年に1回は地域住民の方々に参加していただき火災避難訓練を行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は母体医療機関に隣接しており、緊急時を含めた24時間の医療連携体制が整っており、週1回の訪問看護師による健康チェックも行われ、医療面における本人・家族の安心となっている。
- ・同一敷地内の介護老人保健施設とは、日々の配食や災害対策の協働等、日頃から連携・協力関係を築いている。リハビリを始めとする専門職員の助言・協力等を得られる環境であり、利用者の状況に応じた法人内の各サービスが家族の意向に沿って受けられるよう支援に取り組んでいる。
- ・コロナ禍のため家族との面会は自粛しているが、2ヶ月毎に「自立の家だより」の送付や電話での近況報告を行って、事業所内の生活の様子を通し、利用者と家族のつながりが途切れないように取り組んでいる。
- ・管理者や職員は、利用者本人の思いに沿って個々のペースで生活できるようにケアを行っている。職員の質とサービスの向上のため研修受講や資格取得を支援し、時短勤務など職員の事情も考慮した部署異動などで働きやすい就業環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念に沿ったケアの実践を行うことができるよう理念とともにその基となった言葉を事務所内に掲示し、毎日の朝礼時に理念の唱和を行い努めている。	全職員で作成した理念を事務所に掲示するとともにパンフレットにも掲載し、毎朝唱和して確認している。毎月ミーティング時にケアを振り返り理念の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流は自粛している。しかし、幼稚園児が花の日などに訪問してくれるなど、交流は継続している。	自治会に加入し、回覧板で地域の情報を得ているがコロナ禍のため交流は控えている。散歩等で近隣住民に会ったときの挨拶や立ち話程度の交流は行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議や地域との交流行事があった頃には認知症や介護保険についての情報を提供したり助言を行うなど、認知症高齢者への理解を深めていただけるように取り組んでいた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍ではあるが運営推進会議は書面での開催を行なっている。資料を送付し、意見等を電話で聞き取っている。	運営推進会議は書面開催で、報告書に「自立の家だより」を添付して送付し、委員の意見は電話で聞き取っている。感染対策や災害対策についての意見に対して事業所の取り組みを説明するなど、個々に意見交換を行って支援に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	必要に応じて疑問や質問があるときは直接市の担当者に連絡し、助言や指導をいただくなど常時連携を図っている。市からの連絡事項などはメールで配信されている。	市の担当者とは、必要時に窓口に出向いて相談したり市からの連絡メールの配信などで、連携を図っている。オンラインや資料配布を含めて市の研修会等に参加し、情報収集にも努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内での定期的な研修や身体拘束廃止委員会を中心とした会議を行い、身体拘束廃止に向けた取り組みを行っている。また、身体拘束3原則の要件に当てはまる利用者に対しては、家族への状況説明を主治医が行い、日々の記録をすると同時に、拘束解除に向けた取り組みを行っている。	指針を作成しており、通常は3ヶ月に1回の委員会を開催している。1年前から4点柵使用の事例があり、毎月検討会を実施し家族への説明及び記録等を整備するとともに、解除に向けて取り組んでいる。不適切な言葉は管理者から注意をし、外出希望の利用者には散歩を一緒にするなど対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないことがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内での研修や事業所での勉強会を行っている。身体的虐待だけでなく言葉の暴力、心理的虐待や介護放棄、経済的虐待もあることを認識し虐待を見逃すことがないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会等に参加し、制度の理解や利用方法について学ぶ機会を設けている。しかし、制度が複雑で理解不足のため、継続して学習する必要がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時には重要事項説明書を用いてご家族に説明し、同意書・誓約書に署名捺印をいただいている。また、法改正などにより加算や利用料金等に変更がある際には書面にてご家族に通知し、同意をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの要望や希望については、日常生活の中での会話等から伺い、管理者・事務長・理事長等に相談するなどして対応している。ご家族からの要望や意見は電話や面会時に伺い、申し送りやミーティング等で周知し必要に応じて理事長と話し合いを行い、改善に努めている。	利用者には日常会話で要望を聞き、要望に添って本人のペースでの生活を支援している。家族からは電話や面会時に要望等を聞いており、リハビリの要望が出された事例では、法人内の介護老人保健施設の専門職員の助言を得て取り組むなど、意見を反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者、責任者は日々のコミュニケーションやミーティングにて各職員の意見や要望を聞き、必要に応じて話し合い、代表者へ報告・相談を行い改善に努めている。	管理者は日常の業務の中やミーティング・毎月の会議で職員の意見を聞く機会を設けている。備品購入や修理の要望は法人に報告して対応に努め、時短勤務希望者には法人内異動等で対応している。個別相談は管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得やスキルアップにつながるよう勉強会を行っている。外部研修への参加も促している。 法人内では資格・経験に応じた給与体系が確立されている。年2回健康診断を実施し健康管理も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で新人研修や各種勉強会を実施しており、参加している。必要に応じて管理者や代表者が面談を行い、各個人の能力に応じた助言や指導を行っている。</p>			
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍で外部研修の機会が減少しており、他事業所との交流・情報交換はできていない。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の生活状況や生活歴、本人の性格や人柄についても家族や各関係機関から情報を収集するように努めている。本人とは共通の話題を見つけるなど、会話や日常のコミュニケーションにより信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に家族の心配事や希望、要望をしっかりと聞き、一つずつ解決できるよう助言や提案を行っている。また、面会に来られた際に生活状況を職員から積極的に伝えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や面談時に入所後の生活について十分に説明した上で複数の提案を行い、家族・本人が望む暮らしに沿った支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者と利用者は生活を共にする家族と思って介護を提供するように努めている。利用者は人生の先輩であり、一方的なケアの提供ではなく、利用者から多くの学びを得ていることを認識するよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会時や電話をするなどして関係性が保たれるように支援している。コロナ禍で面会や家族会などの機会が減少しており、家族との関係性が希薄になっている現状もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、外出の機会が減少しているが法人敷地内で花見など季節に応じた行事等を行っている。また、職員が利用者様の生活していた地域の様子を伝えるなどしてホームで安心して生活ができるよう努めている。	コロナ禍のため家族との面会も自粛し、予約制で15分程度の面会を玄関で距離を取って実施している。事業所から2ヶ月に1回「たより」を送付したり、電話で近況報告を行い、家族との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で顔なじみの関係性ができている。食事のテーブル配置や座席配置に配慮したり、共同作業を通して利用者間での良好な人間関係が構築できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先が同一法人の病院や施設であることが多く、必要に応じた情報共有を行っている。その後の状況についても職員間で情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人やご家族から生活に関する要望や暮らし方への希望等を聞き取り、一人一人の思いを把握するように努めている。また、職員からも日頃の様子や会話の中での希望や要望がないか確認を行っている。	本人の希望を入浴・排泄等の個別ケア時に聞き取り、思いに沿って生活してもらえるように取り組んでいる。言葉の表出が困難な場合等は家族や職員からの情報を参考に、本人の思いをくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントや面談時に生活歴や生活習慣などを聞き取るようにしているが、実際に生活を送る中で得られる情報もたくさんあるため、常に情報収集を行うように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活を送る中から生活習慣やこれまでの過ごし方などを把握できるように努めている。また、一人一人ができること、できないことを見極め、残存能力を活かした生活ができるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、介護スタッフや各専門職と話し合い、意見を聞きながら計画作成を行うように努めている。	本人・家族の希望を基に、職員や関係専門職の意見を聞き、ケアマネジャーが介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し必要な修正を行っている。6ヶ月毎に評価を行い介護計画を見直しており、状況変化時にも現状に合った計画にしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子は生活記録に記載している。特に変化がある時や、ケアを行う上で気づいたことなどは申し送りノートや個人のケース記録に記載し、周知徹底できるように努めている。毎月、月末にケアスタッフが評価を記入しているため、それを参考に必要に応じて計画の見直し等を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでは生活支援を中心にしているが、身体機能の低下が顕著になった場合や、身体機能の維持向上を希望される場合には併設の老健へ一時的に入所し、リハビリを行うことができるように支援・調整を行っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が楽しく安心して生活ができるように、地域の設備やなじみの場所などを把握し、資源を活用して楽しみのある生活ができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入所時からかかりつけ医を母体病院である永井病院にしており、24時間・365日切れ目なく医療が受けられるような体制を整えている。必要に応じて主治医の判断で専門医を受診できるような支援も行っている。	契約時に確認しかかりつけ医は母体医療機関となっている。月2回の往診及び24時間の医療連携体制を築いており、他科受診は家族対応である。週1回の訪問看護師による健康チェックも実施し、必要な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携にて、母体病院の訪問看護師が週に1回来園され、日常の様子や情報の提供・共有を図っている。また、日々の変化があった場合には速やかに外来看護師に報告し、医師の指示を仰いでもらうなど、密に連携を図っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>母体病院に入院された場合には、病院の相談員と連携し病状説明に立ち会う、病棟へ状態確認のため訪問するなどして情報の共有を行っている。また、他院の場合にも入院時の情報提供、カンファレンスへ参加するなどして関係性の構築につとめている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時には重度化の指針に基づいて説明を行い、意向を確認している。また、状態に変化があった時やケアプランの更新時など、折に触れて本人・家族の意向を伺っている。本人・家族の意向はスタッフ間で共有し、意向に沿った支援ができるように取り組んでいる。</p>	<p>契約時に重度化等の対応について、指針で選択肢も含めて説明し同意書を得ている。状況変化時に医師から家族に説明し、家族の意思確認を行っている。看取り介護は行っていないが、事業所でできることを医師と検討しながら家族の意向に沿って支援に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応や事故発生時の対応については定期的に勉強会に参加して知識の習得に努めている。また、日頃から急変や事故があった際にどのように対応すれば良いかを考えながら支援を行うよう努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎月各災害を想定した避難誘導訓練を行っている。毎回、避難誘導にかかる時間を計測している。利用者様の身体機能低下に伴い、車椅子利用者が増加しているため避難誘導に時間がかかるようになっている。併設老健の協力や地域の方々の協力をいただき、速やかに避難誘導ができるように取り組んでいる。年に1回は地域の方々にも参加していただき、火災避難訓練を行っている。</p>	<p>年1回は消防署の立ち合いを受けて昼想定での避難訓練を実施している。毎月火災・水害・地震のいずれかを想定した訓練を実施している。屋外にパトロールランプを設置しており、災害時には点灯して地域住民に周知するようにしている。併設の介護老人保健施設の避難訓練に事業所職員も参加し連携・協力体制を築いている。備蓄は介護老人保健施設で1週間分の水・食料を確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は人生の先輩であり、尊厳を尊重すべき存在であることを日頃から意識し、言葉かけや話し方、声のトーンなどに注意を払っている。職員間でも不適切な言葉かけや利用者様が不快になるような対応をしないようお互いに注意している。	法人で年1回接遇研修を実施し、個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。馴れ馴れしくならない程度に本人に合わせた言葉遣いや対応に努めている。申し送りは2ユニット合同で行い、利用者には内容がわからないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活では、利用者ご本人のペースに合わせて日課を提供している。活動への参加や活動の内容などは複数の中から選択できるように支援している。また、利用者様が希望することをスタッフに伝えやすい関係性の構築にも取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活では、利用者ご本人のペースに合わせて日課を提供している。利用者様はその日の気分によって過ごすことができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時や入浴準備の際にご本人の好みの洋服や髪型などを伺い、希望に沿った衣類等を選ぶなどして身だしなみに気を配り、おしゃれを楽しむことができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は管理栄養士がバランスを考えて提供している。ホームでは適温・適食、見た目でも楽しめるような盛り付けを心がけている。食後はテーブル拭きやお盆拭きなど、利用者様ができることを一緒に行っている。	ご飯とみそ汁以外は介護老人保健施設からの配食を受け、事業所で盛り付けている。テーブルやお盆拭きは利用者も一緒に行っている。季節の行事食の提供もあり、季節感のある食事を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量、水分摂取量は記録しており、1日に必要な栄養・水分摂取ができるよう支援している。食事の他に10時・15時にお茶の時間を設け、水分摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導・助言のもとケアを行っている。自身でケアできる方もスタッフが確認し、義歯や残歯に磨き残しがないように支援している。月2回、歯科衛生士による口腔ケア指導がある。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の能力に応じてポータブルトイレを設置するなどしてできるだけトイレで排泄ができるように支援している。尿量や排泄パターンを考慮してパットの種類などを選定している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、パターンに応じた声掛け・誘導を行って、排泄を支援している。排泄用品は個々に応じたものを検討して使用している。リハビリパンツのみに改善した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体的活動量や食事量が減少すると便秘になりやすいため、適度な運動、活動を促している。主治医の指示で緩下剤を服用し、便秘にならないように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴時間は基本的に病院の外来診療時間に合わせて設定している。入浴は原則週2回以上としている。時間や曜日は事業所の都合で設定しているが、入浴する際にはゆっくりと個人の習慣を尊重し楽しく入っていただけるよう配慮している。	週2回午後を基本に入浴を実施している。体調により日を変えたり清拭を行い、希望で同性介助もしている。車椅子使用が多くなり半数はシャワー浴であるが、ゆず湯・菖蒲湯を実施し香りを楽しんでもらっている。嫌がる場合は、日を変える等、タイミングを見て入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握したうえで、日課の中に休息時間を設けている。夜間は原則21時を消灯時間としているが、その日の気分で遅くまで起きている方などには個別に対応している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服薬については薬剤情報をしっかりと確認し、作用と副作用について把握するよう努めている。必要に応じて薬剤師に直接助言を受けることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	洗濯ものたたみや台拭きなど、家事関連動作はなじみのある行為であり、特に女性利用者は積極的に手伝ってくださる。個別的には色塗りや読書など、好みの活動を推奨している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	コロナ感染症流行に伴い、外出の機会は減少している。家族との外出や面会などにもまだ制限がある状態。徐々に規制が緩和されていく中で、以前行っていた外出行事や家族との外出ができるように努める。	コロナ禍のため外出を控えており、受診時に遠回りをして民家の庭を外から眺めたり、敷地内の桜の花見に車いすを使用して職員と1対1で出かけている。家族と他科受診で外出する利用者もいる。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	当事業所では現金を預かる、扱うなどの支援は行っていない。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	電話や手紙はご本人の希望に沿ってできるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースは常に空調や採光に配慮し、利用者様が過ごしやすい雰囲気になるよう努めている。壁面に季節の飾りなどを貼り、季節の移り変わりを感じていただけるように配慮している。	リビングはエアコンで室温を調整し、日光はカーテンで調節し換気は窓を開けて十分に行い、適度な室内環境である。季節の作品や花の飾りつけで、季節を感じてもらえるように工夫している。ソファがあり、利用者が好きな場所でゆっくりとくつろげるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペース（食堂）にはテーブルと椅子の他にソファがあり、それぞれ好きなどころに座って余暇を過ごすことができるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはダンスとベッド、洗面台が設置されているが、その他はご本人の使い慣れた家具を配置したり、家族の写真などを飾るなどして利用者様が過ごしやすい環境を整えるよう努めている。	居室には電動ベッドや洗面台・ダンス・エアコンが備えてあり、寝具はリースである。本人も必要に応じてハンガーラックや衣装ケースを置いたり、写真やぬいぐるみを身近に飾って安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口には表札をかけて、自身の部屋が分かるようにしている。他にトイレや浴室も表示している。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない